

---

---

シンポジウム

---

---

## 周産期医療の現状と展望

A Current Status and Future View of Perinatal Medicine in Niigata

### 第 621 回新潟医学会

日 時 平成 18 年 5 月 20 日 (土)  
場 所 新潟大学医学部 有壬記念館

司 会 田中憲一 (産婦人科)

演 者 須藤寛人 (長岡赤十字病院産婦人科), 倉林 工 (新潟市民病院産婦人科), 沼田 修 (長岡赤十字病院小児科), 松永雅道 (周産母子センター NICU), 奥山直樹 (小児外科), 山崎 理 (県福祉保健部健康対策課)

#### 1 新潟県における周産期医療の現状 — 産科の立場より —

須藤 寛人

長岡赤十字病院産婦人科

#### Present Status of Perinatal Medical Cares in Niigata Prefecture

Norihito SUDO

*Division of Obstetrics and Gynecology, Nagaoka Red Cross Hospital*

#### 要 旨

新潟県の周産期医療の現状がどのようなものであるかを知るべく、母体搬送受け入れ病院 7 施設と母体搬送元診療所・病院 32 施設のアンケート調査を行った結果を報告した。母体搬送は、平成 16 年には総受入数は 371 例であったが、受け入れを断らなければならなかった数はおよそ 70 件に達していたことが分かった。お断りの理由は NICU 病床不足、呼吸器不足や新生児対応不

---

Reprint requests to: Norihito SUDO  
Division of Obstetrics & Gynecology  
Nagaoka Red Cross Hospital  
2-297-1 Senshu,  
Nagaoka 940-2085 Japan

別刷請求先：〒940-2085 長岡市千秋 2-297-1  
長岡赤十字病院産婦人科 須藤 寛人

可などであった。地域周産期母子医療センターの機能上の向上が望まれるところであるが、新生児専門医の不足も指摘されるべきと考えられた。

キーワード：周産期医療，母体搬送，新生児搬送，NICU，MFICU

## はじめに

周産期医療は、小児科医、産婦人科医、小児外科医等の携わる医療領域であり、また、多くの妊産婦を扱う診療所から地区の中核病院そしてNICUをもつ専門病院までを巻き込んでいる裾の広い医療分野である。周産期医学が進歩し、超低出生体重児の予後が益々向上していくなかで、この横断的医療がうまく機能しているかどうかを検討する目的でこのシンポジウムが企画されたものと思う。新潟県内の産婦人科の診療所と病院にたいしてアンケート調査を行った最近の結果を報告し、産婦人科医の立場より、問題点を明かにしたいと考える。

## 最近の経過について

平成15年10月、新潟県は、総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センターおよび協力・支援病院の指定を行い、周産期医療の大幅な整備をおこなった(図1参照)。県内救命救急医療システムに類似する形で、県内周産期医療ネットワークシステムが稼動し、インターネットで応需情報モニター画面よりセンター病院の空床状態等を知ることが可能になった。搬送にあたっては県内共通の診療情報提供書の使用が勧められるようになった。年1回、総合周産期母子医療センターの計画運営のもとで、周産期医療従事者講習会が開かれ、また、県健康対策課主催で、県周産期医療協議会が継続されている。

### 母体搬送受入病院7施設における

#### 「受入状態に関するアンケート調査」結果

周産期母子医療センター指定後の、母体・新生児搬送元医院・病院および母体搬送先センターの

状態はどのようであったかを知るべくアンケートによる調査をおこなった。この内、指定7施設の母体搬送・新生児搬送の受け入れ状況の結果を示した。

平成16年1-12月の7施設の総分娩数は3827件であった。この内、母体搬送受け入れ数は371例であった。7施設の母体搬送を断った総数は66件であった。母体搬送を断った理由は、産科病床満床や産婦人科医対応不可と答えた施設は皆無で、全例、NICU満床、呼吸器/保育器不足や新生児科医対応不可による理由であった。断り時の基本的対応として、他施設を仲介までとする施設は1カ所にとどまった。搬送先センターとして「ハイリスク妊婦については早めの決断をしてもらいたい」等の希望があった。

### 搬送元医院・病院のアンケート調査結果

県内で分娩を扱うと思われる52の医院と病院にアンケートを配布し、32施設(61.5%)より回答をえた。平成16年1-12月の32施設の総分娩数は8793件であった。母体搬送を依頼した施設は28施設で、搬送依頼件数は1-16件(平均5件)であった。搬送を断られた施設は18施設であった。断られた時に、次ぎの搬送先に連絡・仲介してもらったと答えた施設は24%であった。搬送先が決まらず、大事に至ったり、問題になったことはなかった。周産期医療のネットワーク応需モニターは、毎回使用が20%、時々使用が10%に止まったが、母体搬送情報提供書は90%に使用されるようになっていた。

### 周産期母子医療センターの機能・役割

県内のNICUとMFICU(母体胎児集中治療室)の病床数を表1に示した。保険適応のNICU総数

【新潟県周産期医療体制】

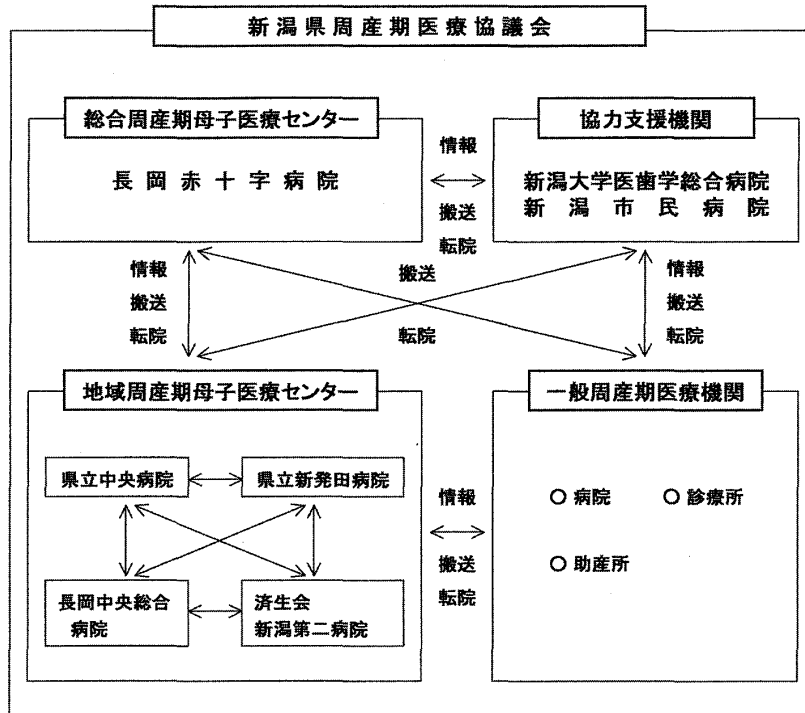


図 1

表 1 県内周産期医療機関の NICU と M・FICU \* の病床数

	NICU			NICU 後方 病床	M・FICU			M・FICU 後方病床
	保険 適用	保険 適用 外	計		保険 適用	保険 適用 外	計	
県立新発田病院		(6)	(6)	(6)			0	( )
新潟大学医歯学総合病院	6		6	12		8	8	14
新潟市民病院	9		9	21		2(6)	2(6)	24
済生会新潟第二病院		5	5	( )		2	2	28
長岡赤十字病院	9		9	21	6		6	24(22)
長岡中央総合病院		(6)	(6)	0			0	( )
県立中央病院	6		6	8		2	2	18
計	30	5(17)	35(47)	68	6	14(18)	20(24)	108(106)

\* 母体胎児集中治療室 ( )は予定数

は 30 床である。厚労省の試案によれば、新潟県には 40 床の NICU が必要である。地域周産期母子医療センターである 3 施設の NICU17 床が、現在

は保険適応外であるが、今後理想的に活動した時には、母体搬送や新生児搬送はスムーズに受け入れられると予想される。北東より南西に長い新潟

県の特性を考えると、遠方施設に搬送されることもなくなるであろうと予測される。

MFICUの保険適応病床数は6床である。保険適応外のMFICUはこれまでは意味合いが薄かったが、今春より、保険医療上、ハイリスク妊娠加算が認められるようになり、当該施設は多少のメリットが得られるようになったと理解したい。MFICU後方病床数は、各施設が統一された考えのもとで提示された数ではないので、再検討が必要と判断される。

### ま と め

県内の分娩を扱う診療所と病院に、周産期医療の現状を知るべくアンケート調査を行った。

その結果

1. 平成16年の県内の母体搬送数は371例であった。
2. 母体搬送のお断りはおよそ70件であった。
3. お断りの理由はNICU満床、呼吸器・保育器不足、新生児対応不可であった。
4. 周産期医療ネットワークの応需モニターの使用率は26%と低率であった。
5. 新しい周産期医療システムが発足したが、NICU不足は10年前と変わりがないという厳しい意見もあった。

県内の4病院の保険適応NICUが30床では不足であり、地域周産期母子医療センターのNICUの充実が望まれる。

## 2 産科から見た周産期医療の今後の展望

倉林 工

新潟市民病院産婦人科

### The Future of Perinatal Medicine from an Obstetrical Standpoint

Takumi KURABAYASHI

*Department of Obstetrics & Gynecology,  
Niigata City General Hospital*

#### Abstract

I discussed the 5 points of the future of perinatal medicine from an obstetrical standpoint.

- (1) The improvement of the system of perinatal medicine in Niigata prefecture.
- (2) The improvement of the working conditions of obstetricians.
- (3) The trial to reduce a lawsuit.
- (4) The deepness of obstetrician's awareness to reduce the neonates admitted to NICU.
- (5) The training of an obstetrical specialist in a training hospital.

**Key words:** 周産期医療, 新潟県周産期医療ネットワーク, NICU不足, 周産期専門医制度

**Reprint requests to:** Takumi KURABAYASHI  
Department of Obstetrics & Gynecology  
Niigata City General Hospital  
2-6-1 Shichikuyama Chuo-ku,  
Niigata 950-8739 Japan

別刷請求先: 〒950-8739 新潟市中央区紫竹山2-6-1  
新潟市民病院産婦人科 倉林 工